



名品の世界に 入り込む

トーハクアイデアソン
大雅チーム

目次

- ◆ 課題：外国観光客
- ◆ アイデアの方向性
- ◆ 実例①茶碗が語る桜茶会
- ◆ 実例②③花下遊楽図屏風
- ◆ まとめ
- ◆ アイデアの有用性
- ◆ 未来の展望

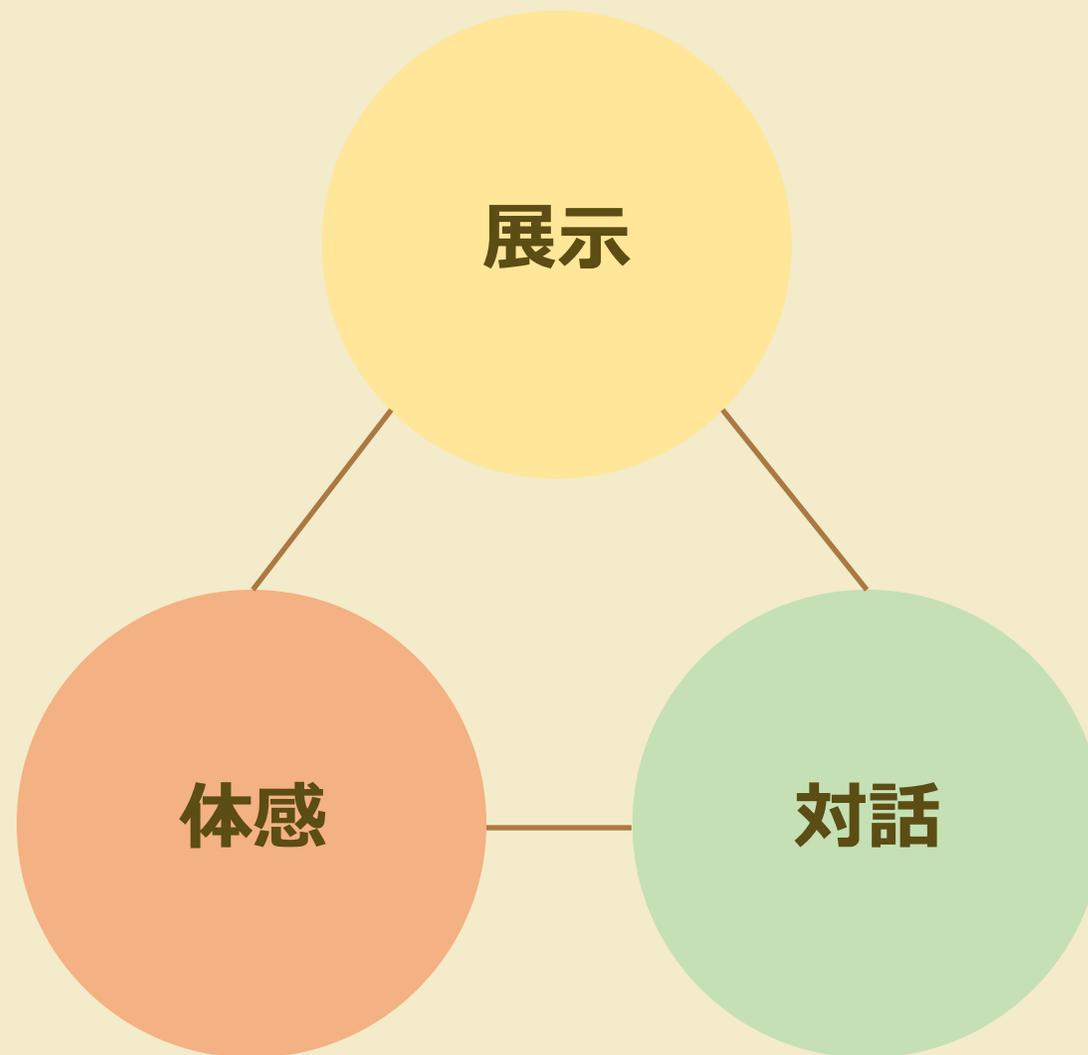


課題：外国人来館客のニーズ

- ◆ 作品の時代背景とのイメージがほしい
- ◆ 日本の歴史との結びつきを分かりやすく示してほしい
- ◆ 展示方法を、もっとインタラクティブにしてほしい
- ◆ 多言語の対応をもっと進めてほしい

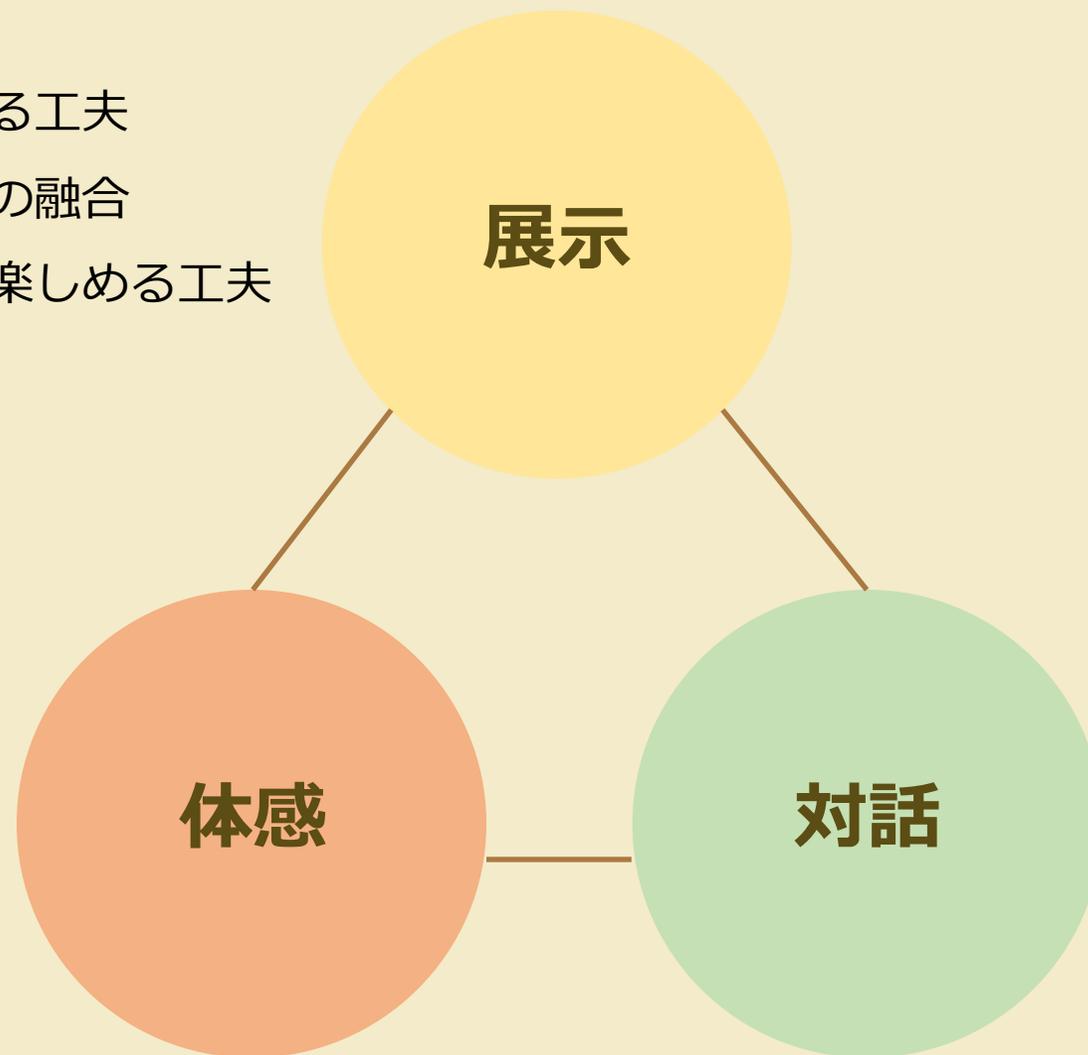


アイデアの方向性



アイデアの方向性

- ◆ 当時の様子をイメージできる工夫
- ◆ 国宝級の名品と仮想化技術の融合
- ◆ 言葉を超えて、直観感的に楽しめる工夫



アイデアの方向性

- ◆ 当時の様子をイメージできる工夫
- ◆ 国宝級の名品と仮想化技術の融合
- ◆ 言葉を超えて、直観感的に楽しめる工夫

展示

- ◆ 作品の中に入り込む体験
- ◆ 日本美術の特徴である『用の美』の体感

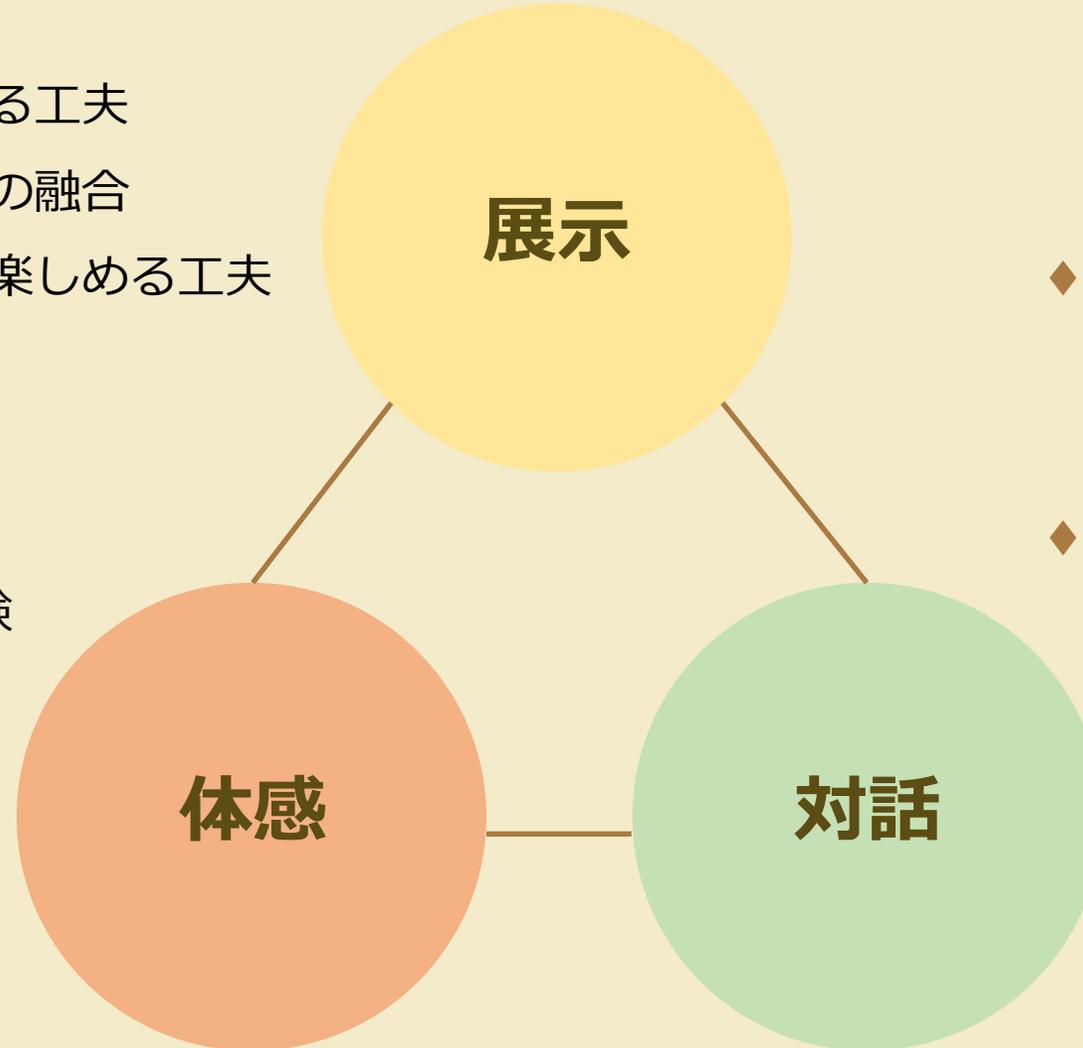
体感

対話

アイデアの方向性

- ◆ 当時の様子をイメージできる工夫
- ◆ 国宝級の名品と仮想化技術の融合
- ◆ 言葉を超えて、直観感的に楽しめる工夫

- ◆ 作品の中に入り込む体験
- ◆ 日本美術の特徴である『用の美』の体感

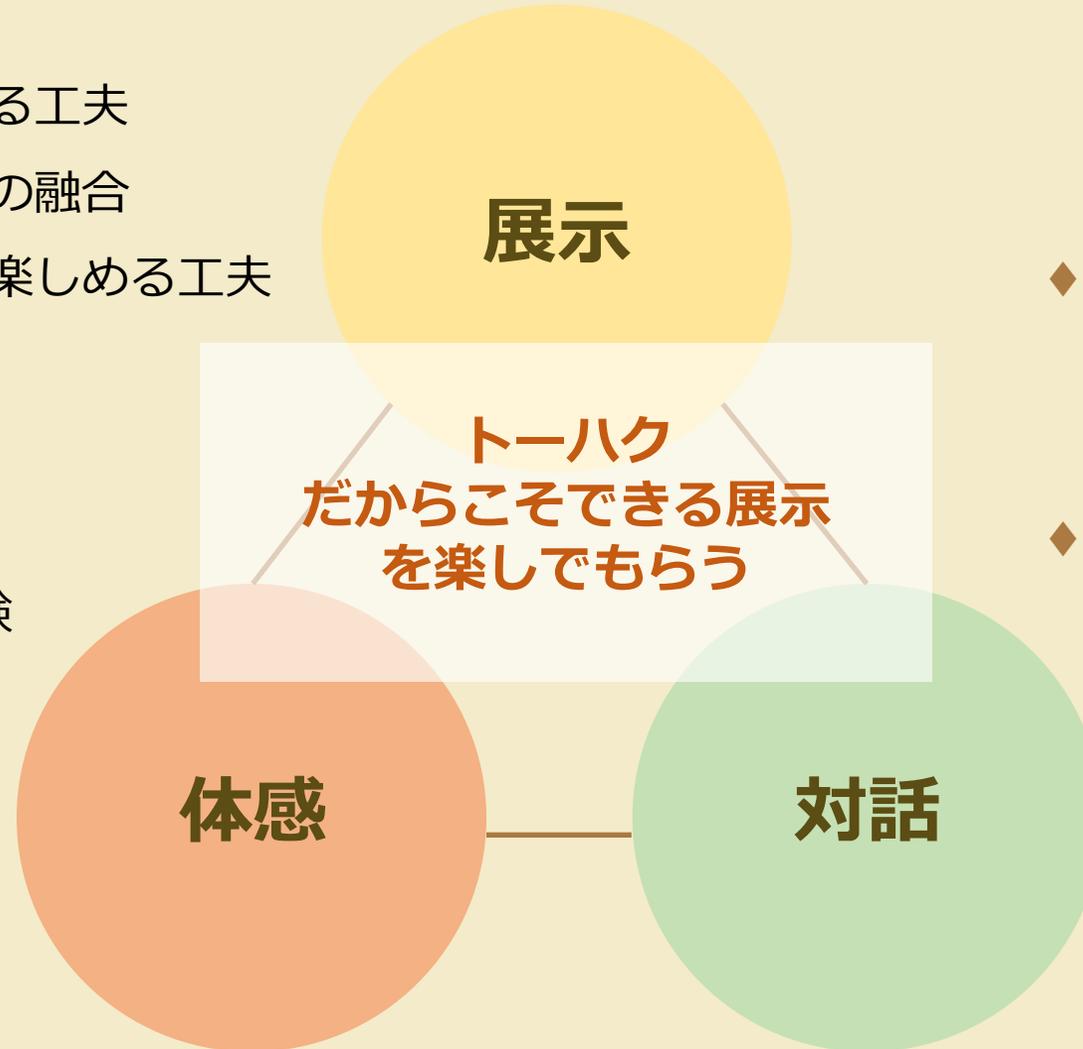


- ◆ 作品との対話：
作品と向き合い、当時の文化背景も含めて理解を深める
- ◆ 他者との対話：
展示で感じたことを発信し共有することで、他者の観点を知る

アイデアの方向性

- ◆ 当時の様子をイメージできる工夫
- ◆ 国宝級の名品と仮想化技術の融合
- ◆ 言葉を超えて、直観感的に楽しめる工夫

- ◆ 作品の中に入り込む体験
- ◆ 日本美術の特徴である『用の美』の体感

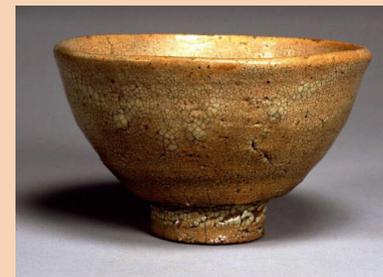


- ◆ 作品との対話：
作品と向き合い、当時の文化背景も含めて理解を深める
- ◆ 他者との対話：
展示で感じたことを発信し共有することで、他者の観点を知る

実例①：茶碗が語る桜茶会



桜のプロジェクション
マッピング



小田有楽齋



黄釉锈絵梅
樹文大瓶

实例②：花下遊楽図屏風が動き話し出す



実例③：花下遊楽図屏風から音や匂いがする



効果とメリット

展示室でリアルとバーチャル境、今と昔の境をぼかし、融合する

『プレミアム鑑賞』 『豪華プレミアム茶会』 体験

◆ **たくさんの作品に応用できる。**

例) 自分が武将になり、甲冑をゼロから着せ付け過程を来館者に投影、一式着た様になれる。手順を間違えると 家臣に嘆かれるなど。

◆ **誰にでも“百聞は一見に”で理解しやすい。**

◆ **自発的考察を自然と誘導する事で、来館者は作品への理解や興味がより深まる。**

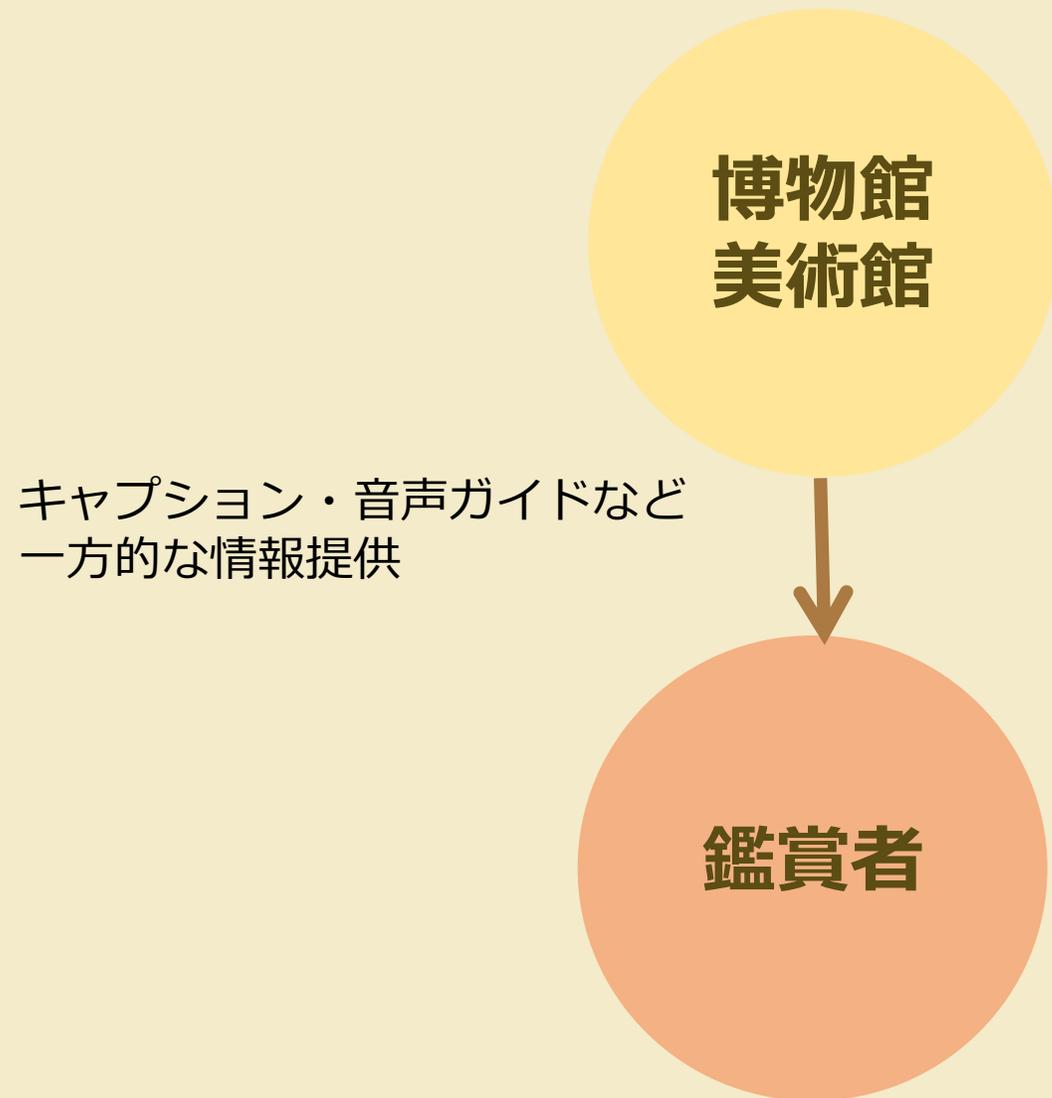
◆ **トーハクだからこそ、全てバーチャルにせず本物との融合が可能。**

◆ **仮想だからこそシーンや来館者の要望により使い分けられる。**

◆ **展示品と展示品を関連付けながら楽しめる**

“作品と人”、
“人と人”との会話
や繋がりをバー
チャルが生む

まとめ①今までの作品鑑賞



まとめ②今回の鑑賞方法



アイデアの有用性

項目	内容
東京国立博物館ミッションとの整合性	→本物との対話を重視し、外国人来館客に日本文化と親しんで頂く
外国人のニーズ考慮	→日本文化の疑似体験、言語の壁を超えた直感的な体験
オリジナリティ 豊かな博物館体験	→名品と仮想現実の融合による時空を超えた体験 →季節を感じながら国宝級の名品を使った非日常体験により思わずシェアしたくなる
ICTの有効活用	→プロジェクションマッピングにより、作品本来のポテンシャルを実現する
実現可能性	→屋内に庭園での茶会の様子を再現するプロジェクションマッピング



今後の展望・野望

- ◆新しい“日本といえば”の誕生。桜・茶・着物・侍に次ぐ〇〇が生まれるかもしれない
- ◆来場者、トーハク、日本の街の『三方よし』
- ◆トーハクを爆発的に拡散
- ◆老若男女、国籍問わず、五感を活用して楽しむ

コンセプト説明

最高峰の本物が展示されているにもかかわらず、**その価値や当時の世界観**を体感しきれていないことが課題であると考えた。個別にガラスケース越しに鑑賞するだけでなく、**展示物の世界観に入り込む**ことで、当時の生活を体感し、名品と対話することで言語を超えて直感的に楽しめる展示方法を目指した。**名品と向き合い感じたことを自分の言葉で表現**することで、芸術品との新しい関わり方が生まれる。また思わず**シェア**したくなるような体験を提供することで、日本文化への理解を深めて頂き、**最高のお土産話**になればとの願いを込めました。

